

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 仙台ビューティーアート専門学校  
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 岸本拓也

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 村松千秋

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として、「人を美しくすることで人を元気にし、日本を世界を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また、「技能と心の調和」の教育理念の下で、「知識や技能を活かし、これからの社会を生き抜いていく力を身に付けた人材」を育成する人物像として、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### 1 重点施策振り返り

平成 28 年度は、三幸学園が目指す職業人像「誰かのために働く」を目指した人材育成を行う上で、「凡事徹底」を基本軸に持ち、現場で必要とされる人材教育を行ってきた。

その結果、目標達成（国家試験の合格率向上、就職先の拡大、就職率 100%）に向けた取り組み方と、方向性の明確化で、個の生徒の力を伸ばすことが出来た。

また、単に知識や技術を習得する授業に留まらず、社会人で必要とされる人材を育成する指導（あいさつ、社会の基本に忠実な指導）を行うことで、現場につながる授業を強化することができた。

同時に、産学連携やボランティアに積極的に参加することにより、生徒自身の技術力を発揮する場を設け、意欲向上につなげることが出来た。

### 2 学校関係者委員コメント

- ・立ち止まって挨拶や、明るく元気に挨拶が出来ていると感じる。また、エレベーター乗り降りのマナーも出来ていると感じる。
- ・今後、誰かのために働くという部分で即戦力になれる人材育成に力を入れてほしい。そのために学校の授業、行事、諸活動に目的意識をもたせ取り組んでほしい。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

#### ① 課題

- ・目指す業界では「自ら考え行動する」ことが求められる。この「自ら考え行動する」ことを日々の授業や就職指導において意識して指導していく必要がある。また、長く働くことが出来る人材育成が必要とされる。
- ・地域に根ざした業界の動向を把握し、就職現場がどのような技術・人材を求めているのかのニーズを、把握することが必要とされる。また、そのような情報を、授業と就職の指導を行う教員全体がより深く知っておく必要がある。

#### ② 今後の改善方策

- ・就職先となる美容院各方面へのニーズのヒアリングや、輩出した卒業生のその後の動向などを把握して専門学校教育の授業や就職指導に反映させる。また、職業理解をさせることで実際に働いたときをよりイメージさせ、働く意味を理解させる。
- ・学校の教育が、今の若者に合っているのか、また学校の教育の技術面、知識面、サービス接遇面、心構えの面などが、今の社会のニーズに合っているのかを把握していく。

#### ③ 特記事項

- ・現場力を高める教育では、株式会社友美様（サロンの授業）、ガモウ株式会社様（教材納入、コンテストや講演会など美容業界の情報提供）、小林豊子きもの学院（着付けの授業）、セブンブリッジ様（サロンの授業）など企業との連携を昨年よりも強化して行った。
- ・産学連携・ボランティアの推進を行い、学校の授業が、どのように社会で繋がっているのかを知る機会を多く持つことができた。産学連携やボランティアの提供先としては、芸能事務所、映画撮影、テレビ撮影等でのメイクやヘア、アシスタントなどの専門技術の提供であったり、プロスポーツ会場や、大規模商業施設でのお客様サービスの模擬店舗運営などで、接客を学びつつ、メイク・ヘアアレンジなどの専門技術の提供ができた。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・人間力、技術力どちらも兼ね備えていることが必要。人との出会いを大切にして交友関係を広げてほしい
- ・こちらが求めるコミュニケーションと生徒が理解しているコミュニケーションは違っているため、現場で求められるコミュニケーションとはなにかを教えていく必要がある。
- ・積極的に聞いてくることが少なくなっているため、自ら学ぶ姿勢を持ってほしい。

## (2) . 学校運営

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

### ① 課題

- ・教育業務を行う上で、職員室での運営機能の向上が求められる。事務的処理、会議運営、振り返り改善などをより高いレベルでシステム構築する必要がある。また、常に業務改善を行い効率化を図ることが必要とされる。
- ・学校運営面ではコンプライアンス遵守の理解と実践、また生徒指導面ではハラスメント防止や生徒の多様化の理解などが求められている。

### ② 今後の改善方策

- ・業務のシステム化・マニュアル化、情報システム化による業務効率化を進める。
- ・部門内業務（検定試験、就職管理・実習管理、授業科目管理）などフローの再点検と、人員配置の見直しによる業務の効率化を図り、教育にかける時間を増やしていく。

### ③ 特記事項

- ・年3回の全教職員参加の全体会議の実施による、運営方針の浸透や情報共有ができています。
- ・教員同士の授業交換や、実技授業を一人体制から2人体制に増やすなど教育の質の向上に努めた。
- ・ハラスメント規定の整備（アカデミックハラスメントなどの防止を図る）や勉強会を定期的実施している。

### ③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学生は面談時に面談の会話を録音している場合があったりや、教員から言われる言葉に敏感であるため、発言や伝え方に気を付けなければならない。
- ・今の生徒は、一度注意などで厳しく指導されると恐怖心で、または先生への苦手意識ができて、話が来ないと言っている現状がある。

### (3) . 教育活動

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

#### ① 課題

- ・現場により近い環境を整え、やりがい、達成感、厳しさ、行動力など現場力を身に付ける必要がある。
- ・生徒の授業アンケートや卒業生アンケートは前年度の結果を常に意識し、個々の先生が結果を受け止め自分の授業の振り返りと改善をしていかなければならない。

#### ② 今後の改善方策

- ・授業アンケートや卒業生アンケートの結果に対し、重点項目を絞り、新年度の改善項目明確にしよりよい教育に取り組む。
- ・実習先においては学校教育に理解のある企業が増えてきており、繋がりが出来て来ているため、今後は生徒の希望地域で実習サロンが確保出来る様、開拓を進めていく。また実習先で注意をうけたことを、先生間で情報交換しておく。
- ・コンテストを通して生徒自身が技術力をためし、より成長が実感できる教育を目指す。
- ・業界の変化に伴い、現場により近い知識や技術が提供できる様、常に最新のシラバスや授業内容を目指す。

③ 特記事項

- ・平成 28 年度には、多数の企業の皆様に授業指導や就職指導に協力をいただいた。  
J's 様（就職指導、モチベーションアップのための講演）、SHIDAX 様（エステ業界での求められる人材とは）、  
的場亮様（社会で必要な考え方の講座）ほか生徒が学ぶ機会多数

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・固定観念が強い教員や、“こうあるべき”が強すぎると生徒は苦しくなる。生徒にあった指導が出来るようにする必要がある。
- ・実習や外部に出ることが多いことは良いことだが、何のために実習に行くのか目的を理解させる必要があるのではないか。また、基本的なメモを取る目を見て話すなど見られている意識を持ち、取り組んでほしい。
- ・今後、就職をするための指導だけではなく就職後 1 年目をどう過ごすかを指導する。

(4) . 学修成果

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・生徒が希望している就職先の動向を常に把握し、教員が新しい情報を就職指導内で発信する。
- ・学率低減のための、下記のような生徒の生活面や心理面での指導・サポートが必要である。
- ・精神的に弱い生徒への指導やサポート（強く叱ると精神的に落ち込む、集団行動ができない）
- ・学力が著しく低い生徒への指導やサポート（会話や文章の能力が低い）
- ・業界の現場との差が生じないよう、社会の考えを取り入れた学生指導を日々取組み、離職率を減少に繋げる。
- ・卒業生がどこの企業でどのように活躍をしているか発信することで就職への意欲を高める。

② 今後の改善方策

- ・就職先が求める人材を聞いたうえで、合う生徒のマッチング（生徒への求人提案）を行う
- ・生徒には、社会の厳しさや人間関係のたいせつさを伝えていく。
- ・卒業生がいる就職先の案内を強化することで就職先に対する不安の解消を図る。

③ 特記事項

- ・卒業生の WEB サイトの開設や、卒業生向け FACEBOOK で、学校が卒業生へ求人や学校情報を発信する。
- ・新しい担任には、副担任を設置しきめ細かい生徒指導を行う体制を敷いている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・求人票の掲示や公開を適切に行い、期限が過ぎていたり、案内が締め切り間近にならないことを徹底する必要がある。
- ・卒業後 5, 6 年後には美容業界勤務が大体半数くらいになっている。離職せず、長く働ける人材を育成したり、生徒に合わせて求人の紹介を行って行く。

## (5) . 学生支援

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

### ① 課題

- ・学生の相談にのる体制はとれているが、生活面や経済面での具体的な支援体制は十分と言えない。
- ・保護者への確認、報告、相談などの連携は取れている。しかし、遠方の保護者に対して、面談や緊急を要する際の対応や依頼が十分でない場合がある。

### ② 今後の改善方策

- ・入学前、学期ごとなどには、保護者様への定期連絡（入学後の電話がけ、成績発送など）を行う。
- ・生徒が、自身の悩みなどを相談しやすい雰囲気づくり、また担任に伝えやすい環境をつくる。  
また、授業内においても学生の変化（表情・態度・体調など）に気付き、教員間で情報共有の強化を行う。

### ③ 特記事項

- ・心理カウンセラーを設置しており、毎年延べ10人程の生徒が利用している
- ・課外活動にて、産学連携やボランティアの活動を、積極的に行っている。
- ・高等学校の総合学習や進路学習へは、依頼を受けた場合は積極的に協力している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学生は高校側に悩み相談をしている。教員が伝える言葉が理解できていないこともあるため、“しっかりしなさい”などではなく必要なことを、具体的に理解できる表現で、言葉にして伝えなければ伝わらない。
- ・寮生の場合は学校側と連携をとり、情報共有をすることで退学を未然に防げるのではないかと。

(6) . 教育環境

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・常に質の高い教育環境、体制の整備が求められる

② 今後の改善方策

- ・スマホやタブレットを使える環境を整え、スクリーンに映して授業する環境を増やしている。
- ・インターネットや動画を用いた授業ができる環境の設置された教室を増やしていく。

③ 特記事項

- ・海外研修（ロサンゼルス研修、バリ島エステ研修）を任意で実施している。
- ・28年度は教員間による防災マニュアルの読み合わせ、学内においては避難訓練など年1回行った。
- ・水回りなど、使用頻度の多いフロアなどは特に改善を行ってきた。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・パワーポイントや映像、撮影の授業を取り入れているため美容師の楽しさを伝えられる授業があるのは良いと感じた。

(7) . 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

A0 入試に対する高等学校の理解不足（宮城県の高校や岩手県の高校など、高校によっては、A0 による早期進路決定を推進しない学校がある。）昨年よりも A0 入試を禁止や制限する学校が増えている。

② 今後の改善方策

A0 入試についてのメリットを高校進路部へ説明を継続的に行う。（早期進路検討のメリット、A0 入試による特待生受験の機会提供）



③ 特記事項

- ・ 業界のニーズに合わせた技術や資格取得を目指す専門のコースを4コース設置している。

学校関係者評価委員会コメント

- ・ 美容業界は業務内容や下積み時代が、大変で長く続かないのではというイメージを保護者や高等学校の先生は持っている。また、ブライダル分野は企業が育成や福利厚生がしっかりしているイメージの為、希望者が多い。今後、就職先の業界の様子や、企業の企業としての見せ方を考えていく。

(8) . 財務

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

①今後の改善方法

【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

②特記事項

なし

③学校関係者評価委員会コメント

特になし



(9) . 法令等の遵守

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・今後も継続した法令遵守の推進が求められる。

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員の法令遵守に対する啓蒙を図る。
- ・個人情報保護法など、毎年継続し繰り返し法令の正しい知識を教職員に伝えていく。

③ 特記事項

- ・全体会議、担任会議にて、定期的にコンプライアンス研修や、女性が働きやすい職場を作るための研修、若者の学力低下に対応するための研修などを行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・メンバーへのコンプライアンス浸透、継続が必要

(10) . 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・在校生の活動（教育）、学校 PR 活動（広報）面での社会貢献や地域貢献は積極的である。しかし地域に対する公開講座、教育訓練などは積極性が求められるので、今後サロンの授業にて、近隣の地域の皆様に学校にお招きするような機会を作っていく。

② 今後の改善方策

- ・上記のサロンの積極的実施。

③ 特記事項

- ・主な産学連携・ボランティア・社会貢献・地域貢献の具体的内容  
大規模商業施設への技術提供・イベント協力

プロスポーツチーム、スポーツ関係への生徒協力・ファンサービス・技術提供  
 被災地支援活動への協力 乳がん啓発活動等 生徒の活動支援・技術提供  
 近隣への学校開放 エステ、ネイル、メイクの模擬サロン  
 テレビや雑誌、映画など撮影のためのヘアメイク等に生徒による技術提供を行う

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・サロンワークではより地域の方に来て頂けるよう告知していく。

(11) . 国際交流 (必要に応じて)

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・28年留学生の入学があったが、留学生に対するフォローだけではなく他学生の理解度も深めていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・三幸学園の本部が策定した留学生受け入れのマニュアルに沿った受入を行う。
- ・学生に対して留学生が増加している現状を伝える必要がある。

③ 特記事項

- ・留学生入試マニュアルを整備済みである

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学生寮でも近年、留学生の利用者は増えている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・挨拶やマナーが出来ているが、今後は誰かのために働くことをより考えられるような学生を指導する。
- ・現場では技術力も必要であるが、人を接していく仕事であるため人間力が必要不可欠。SNSのテクニックも重要だが人との出会いを大切に、交友関係を広げてほしい。
- ・学生が多様化している中で、教員のこうであるべきや固定観念が強いことで生徒が苦しいと感じてしまうため、学生の気質を理解し、指導する必要がある。
- ・美容師の楽しさを知ってもらえる授業は今後も継続する必要があるが、現場で適応できるスキルも必要なため、サロン実習などなぜ必要か目的を理解させ、取り組ませることをしてほしい。
- ・社会人1年目で必要なスキルや考え方を学校側で指導するように今後考えていく。